

# 『もっと器を、空の器を』(列王記 第二 4章 1-7節) 2021.1.24.

<はじめに> 先回の続きです。預言者の未亡人は直面する課題をエリシャに告げ、助けを求めました。エリシャは彼女に幾つかの指示を与えます。

## I 神の御業の準備

### ①借りて来なさい(3)

「あなたには何があるのか」(2)は、自分に何があって、何が欠けているのかを探る問いです。持っていないものがどうしても必要だから借りるのです。借りるときには頭を下げなければなりません。これらは神様に祈り求める者の姿にも通じるものです。

### ②空の器を(3)

ここでは油を入れる空の器が必要です。大小、形や見栄えは問いませんが、数多く集めるようにエリシャは言います。どこから、どれだけの器を借りるかは、その人の必要と期待に比例します。

### ③背後の戸を閉めなさい(4)

器を借り集めるのは戸を閉めるまでです。後から追加はできません。神のこぼを信じて行動することが、神の御業に先立ちます。これから起こることは見世物ではなく、彼女家族だけが見るのです。そこにはエリシャもいませんが、神様はおられ、働かれます。

## II 神の御業の現場

### ①隠れた所で見ておられるあなたの父(マタイ 6:6)

戸を閉じて、油の壺を手にした彼女は、エリシャのこぼを反芻し、神に祈ったでしょう。そして器を受け取り、壺を傾けます。油は細い糸になっても途切れません。器が満ちると、また次を受け取り、油を注ぐ、これを繰り返しました。彼女たちの顔は輝いていきました。

### ②もっと器を(5)

彼女の声に子どもたちも次々に器運びます。当初の不安・恐れは消えていました。やがて器すべてに油が満たされたことが分ると、油は止まりました。彼女たちの集めた器すべてが用いられ、満たされました。この時の彼女たちの気持ちを想像してください。

### ③神の法則

神は求める者に応える方です(マタイ 6:33、ヨハネ 14:13-14)。神は求める者を探られます(ヤコブ 4:2-3)。何をどれだけ求めるかは、その人の神への信頼・期待の表れです(詩篇 81:10)。神は御業の全貌を説明されません。ただその時、為すべき分を示されます。

## III 神の御業がもたらすもの

### ①必要が満たされる(7)

彼女はエリシャの許に向かいます。その足取り、顔つき、どう報告したかを思い描いてください。エリシャは彼女にその油を売り、それで負債を返すよう伝えます。二人の子どもは彼女の許から取り去られることはなくなりました。

### ②生きる力が与えられる(7)

問題解決を神に求め近づく人がいます。願いが叶えば、神から去って行く人もあります。神の御業は負債が返すだけでなく、今後の彼らの暮らしまで配慮され、満たすものでした。神は人に生きることを求められるとともに、生きるための必要と支えを与えてくださいます。

### ③生ける神の実感を得る

彼女たちはその後どう暮らしたでしょう。この後も様々な問題に向き合う中で、彼女たちはこの出来事を思い起こしたでしょう。自分たちのそば近くにおられ、生きて働かれる神がおられることを私たちも体験的に知り、それを新しい局面にも適用できているでしょうか。

<おわりに> 個人・家庭・教会・社会には問題と必要が満ちています。それらと神様を結び付ける役割を果たすのは誰でしょう。神様はあるものを活用して、空の器さえ用いて御業をなさいます。(H.M.)